

3月…今年度 最終月となりました。

この1年、毎月毎月 その時その時の子ども達へのまなざしや想い、保育に対する姿勢、祈りやヴィジョンなど私共の拙いメッセージをお読み下さりありがとうございました。コロナ発生から2年以上が経ちましたが、かつて 当たり前のように毎日交わしていた皆様との何気ない挨拶や会話がどれほど大事で必要なことなのかを痛感しております。けれどもその中に在って、皆様に温かなご理解とお力添えを頂きましたことは 本園が常に前進していくための 大きな支えとなり 力となりましたこと、感謝申し上げます。前月の初めには とうとうコロナの波が襲来し、幼い子ども達や 職員達の大切な命を預かる立場に在る重責を 改めて全身全霊で受け止め、自らに深く刻む時となりました。今こうして 神様の安らかな御手の中で 皆が笑顔で3月を迎えられておりますことを 心より嬉しく安堵の想いでいっぱいです。たくさんのご協力 ありがとうございました。

さて 先日の全体礼拝で イエス・キリストについての 次のような出来事のお話を 皆で聴きました。これは 新約聖書の中の福音書としてヨハネと言うキリストの弟子が 記述に残していますが、子ども達がわかりやすい内容や表現にアレンジし直しました。

「ある時、人の道から外れた行為を何度も繰り返した“罪人”と言われる女の人が 町の大勢の人達に 大騒ぎで責め立てられ 引きずられながら、イエスさまの前に 連れて来られました。悪いことをしても 全く懲りずに 同じ罪を重ねる女の人に 人々の怒りは頂点に達し、とうとう 皆で 石を投げて懲らしめようと言いながら イエスさまにも同意を求めました。ところがイエスさまは しばらくの間 沈黙し 相手にしませんでした。その様子に 大きく動揺した人々は 更にエスカレートし 女の人を囲んで一斉に石を投げようとしています。その瞬間、イエスさまは皆の前に 毅然と立ち 静かに言いました。“あなたがたの中で これまで一度も悪いことを したことがない人だけが この人に石を投げなさい。”と。

この言葉に、人々はハッと我に返り 自分を見つめ直します。そして 石を置いて その場を去っていき、とうとう そこにはイエスさまと女の人だけが残りました。イエスさまは女の人に訊き、そして静かに言いました“あなたを罪に定める人は いませんでしたか” “わたしも あなたを罪に定めません。行きなさい。そして もう二度と罪を犯してはなりませんよ。” 女の方は 生まれて初めて“赦された” 喜びを知ることができました。そして感謝の想いで心がいっぱいになりました。」

このお話を聴いた後、子ども達に、今 世界で起こっている 大きな国と小さな国との ケンカ →『戦争』について話をしました。子ども達は皆 真剣に聞き入っていました。

“戦争は絶対にしてはならない この世で1番重い罪、大きな暴力。人間には神様から 与えられた心と言葉がある。言葉を使って分かり合える。心を使えばわかり合える。” それから 皆で静かに目を閉じ、ロシアとウクライナの人々を想いながら 祈りました。「どうか今すぐ ロシアの人達が ケンカをやめよう！と思う心 を 持たせてください。どうか今すぐ ロシアの人達に ケンカが いけないことだと 気づかせてください。」と。

戦争を起こすのは人間、平和をつくり出すことができるのも 同じ、私達 人間です。今一度 その想いを強く 奮い立たせながら、子ども達へ 真摯に向き合い 伝え続けます。

この瞬間も 戦禍に在り、大きな恐怖と不安に苦しんでいる 多くの人々の心の上に 神様の平安と慰めが いつも注がれ続けますよう 心からお祈り致します。（石田 記）

「みこころが天で行われるように、地でも行われますように。（マタイの福音書 6:10）」